

ソフトテニスのメジャー化の実現に向けた方策に関する研究

A study on plans for making the soft tennis popular.

1K09B041-1

指導教員 主査 友添 秀則先生

荻野 光彦

副査 宮崎 正己先生

[目的]

本研究の目的は、ソフトテニス在今后普及しメジャーな競技として発展していくための方策を探り、検討していくことにある。

現在ソフトテニスは国内外問わずマイナーな競技である。各大会における観客動員数やテレビなどのメディアに取り上げられる機会も非常に少ないのが現状である。しかしながら、中学校部活動では男女を問わず多くの生徒がソフトテニス部に所属しているという現実がある。また、競技力の面からみて日本が常に世界のトップ（世界大会参加国は主にアジア圏内）として活躍し、2012年の東アジア選手権では男女共、団体金メダルを獲得するなどの成績を残している種目でもある。しかし、そんなソフトテニスがなぜ国内においてもマイナーな競技として位置付けられ普及しないのか。この問題は無視できないものであり、このような状況を打破し、ソフトテニスの競技スポーツとしての地位をより高いレベルにしなければならない。

[方法]

本研究では、はじめに、ソフトテニスの歴史と現状から発展的課題を考察する。その際、ソフトテニスに関する書籍、ならびに文献資料を中心に分析ならびに考察を行っていく。次に、プロスポーツの成立事例としてサッカーを取り上げ、プロスポーツの存立要件について考察する。そこでは、サッカーに関する書籍ならびに文献資料を中心に分析、ならびに考察を行う。なお、サッカーを取り扱う理由としては、この競技はソフトテニスと同様にマイナーな競技であったが、プロ化やその後のマーケティング活動などを通し、今では日本を代表するメジャースポーツとなっており、ソフトテニスの普及に向けた方策を探る上で参考になると考えたからである。最後にソフトテニスの現状とプロスポーツの存立要件をふまえ、ソフトテニスのプロ化に向けた考察を行っていく。

[各章の概要]

第1章では、ソフトテニスの成立過程と課題をまとめた。ソフトテニスは日本発祥のスポーツであり、学校体育としてイメージが強い競技である。そのイメージを払拭し、メジャー競技へと発展していくためには、日本リーグをプロリーグへと発展させていかなければならない。

第2章では、サッカーを例に挙げ、プロスポーツの成立について考察した。Jリーグの設立過程やマーケティングは、ソフトテニスをプロ化していく上で大変参考になる取り組みである。また、プロスポーツとメディアとの関係は、ヒーローの存在が大きく、ソフトテニスにおいても若い年代からヒーローを創立していくことがメディア戦略の要となるだろう。

第3章では、プロスポーツとしてのソフトテニスの成立に向けた提案をまとめた。ソフトテニスの現状とプロスポーツの存立要件をふまえると、ソフトテニスのプロ化に関しては、メディア戦略が大きな課題であるといえる。ソフトテニスのプロ化の実現のためには、ヒーローと呼ばれるような選手の台頭を望むと共に、日本ソフトテニス連盟からの明確なメディア戦略を強めていかなければならない。

ソフトテニスのプロ化にむけて、Jリーグのマーケティングを参考とし、明確なビジョンを設定する必要がある。プロリーグを設立することで、競技力の向上を図り、そこからヒーロー・ヒロインと呼ばれる選手を発掘、育成しメディアへ働きかけていくことでソフトテニスが活性化されるという好循環を作り出すことが必要である。

以上の考察で得られた、ソフトテニスのプロ化に向けた提案は、あくまで理論的に可能性を検討したものであり、ソフトテニスの普及が実現できるか否かについては未検証である。したがって、これまでの考察したことが普及に有効かどうかを実証的に検討していく必要がある。

